

新取水堰、試験送水の準備段階

排水路 1,400m まで基礎工事完了、チュクレイ村耕地が完全復旧

作業地の至る所で爆発的な人口増加

各作業地で一心不乱に仕事が進められています。とくに新取水堰（マルワリード II）は、二週間後の試験送水を控えて、白熱した展開になっています。

送還難民は作業地の至る所で増え、村落の拡張（家の増築、耕作地拡大）がどこでも見られています。とくに、マルワリード II 流域の村落、排水路沿いのチュクレイ村をはじめシギ村落群で著しいものがあります。カマ郡でも相当の帰還があつたらしく、カマ橋周辺からミラーン堰にかけて、長大なバザールが作られて大変な混雑を示しています。

以下、1月12日現在の、主な進捗をお伝えします。

1. マルワリード II

堰；最終的な固定堰の幅は 250m、洪水吐の造成中。堰長を予定より増し、今冬予定の最終的な巨礫掩蔽面積 9,250 m²

主幹水路；取水門直後を開始、下段部は 5 日後に完了。最終主幹水路長 875m（調節池 90mを加えて 965m）

取水門からの**カチャラ村送水路**；調査完了、来週中に 130mを完了予定。工事のため 1月14日から 2週間断水を住民に通知。

調節池；最終的な池の大きさは 20×90m。橋（第 2）完成、排水門 2・送水門 2、土砂浚渫路（池底）の基礎工事進行。来週中に下段部を終えて通水を待つ。送水試験後、主な重機を護岸工事に振り向けて全力投球、用水路は水を流しながら各上部を施工予定。

※ カチャラ村、コーティ村、ベラ村で著しい人口増加。新たな耕地拡張の動きが見られ始めている。調節池までの試験送水がなれば、カチャラ村の新開地を含む全域、コーティ村・タラーン村既存耕地全域の安定灌漑が保障される。

2. 排水路

全長 1,770mのうち、基礎工事は 1,400m地点までを完了。工事先端は X0 橋を終えて Y1（ガンベリ下流域・チュクレイ村主要排水路）に到達。

※ これにより、チュクレイ村のみで数十ヘクタールの耕地が復活、耕作の準備が急速に進められている。ここでも著しい人口増加。

3. 訓練所

一階部分の終了が間近。しかし、この状況で急を要するものでないので、殺人的な業務を減らすため、必要なら工事の延期または一時休止を FAO と交渉予定。

以上

2017 年 1 月 13 日 記

雪のダラエヌールが作業地から真正面に見える。降雨は正月 3 日間にとどまり、再び河川水は低下し始めている。ケシュマンド山系の雪は薄くなっているが、無いよりは落ち着く。難民と遊牧民を至る所で見える。(マルワリードⅡ堰建設現場 河道①と③の合流点) 2017 年 1 月 12 日



マルワリードⅡ取水口付近全景。2017年1月12日



進む取水堰。既に巨礫はダンプカー2000台分を使用。巨礫の量は膨大だが、交通路確保のため砂利を敷くので見えない。努力した重機の運転手がこぼしている。巨礫でおおわれる堰の面積は9,250㎡、山田堰の25,000㎡には及ばないものの、だんだん造りが似てきている。2017年1月12日



堰工事は最終段階で、洪水吐を造成中。しかし、一年では完成しないので、今冬は「仮工事」とし、夏の洪水期を待つ。2017年1月12日



上流側から堰下流部を望む。堰によって河道が分かれる形となっている。最も河床が低いのは取水口付近で、水面落差（取水門直前一河道③）は約 1.3m。変更点は、下流部の堰長 30m→35m。下流端（砂吐きとの接合部）は径 45m以上の「巨石の島」として円形に鉄壁を置く。2017 年 1 月 12 日



取水門の下流側で用水路の造成が始まっている。カチャラ分水路を一週間以内に完了する予定。旧取水口は既に砂利堆積で機能せず、埋めつぶされる。

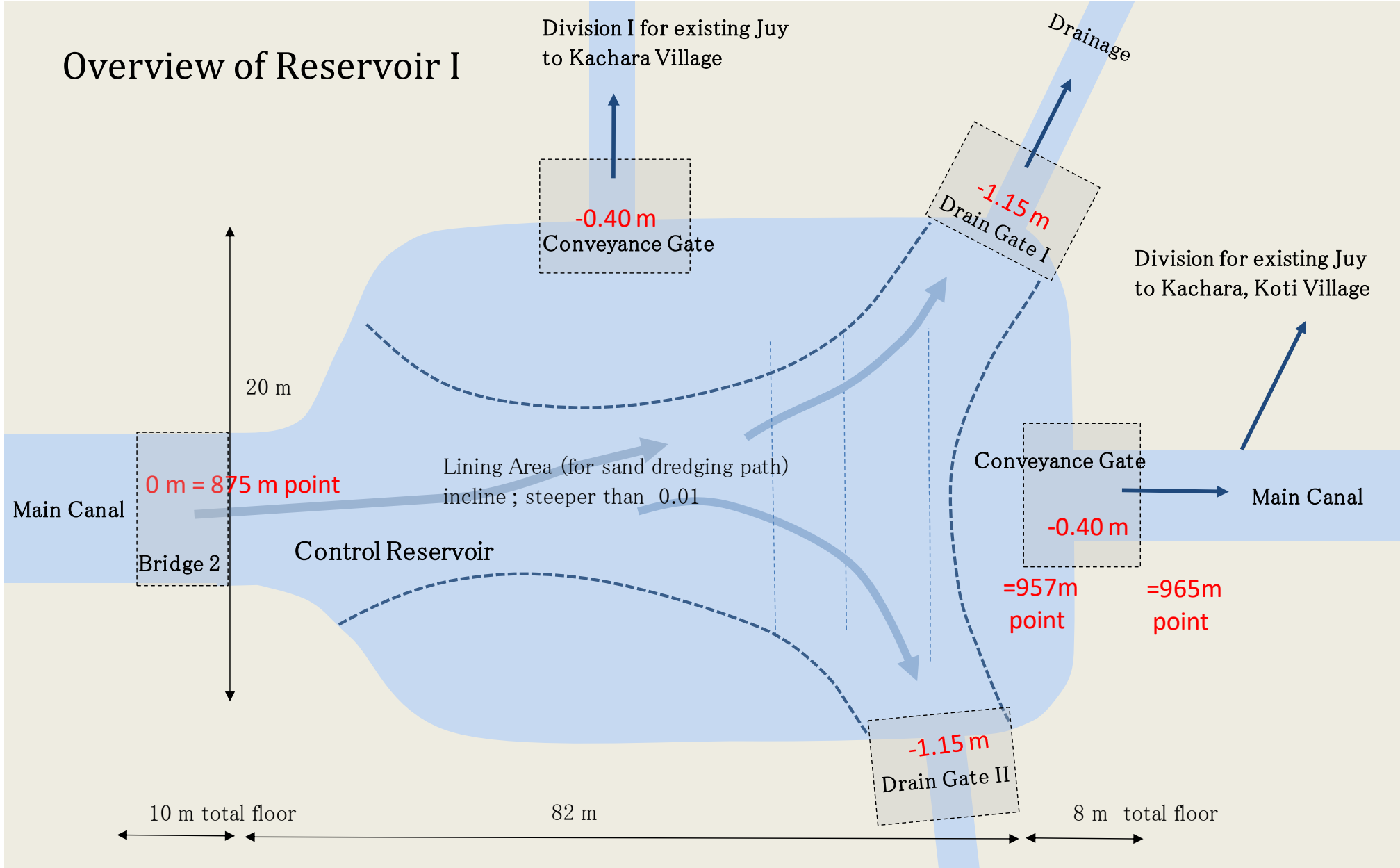
2017年1月12日



同部を下流側から見る。2017 年 1 月 12 日



これが調節池の最終です。



調節池に多くの作業が集中している。橋（第2=取水口から865m地点）は完成し、同部までの水路壁（下段）が既に到着している。2017年1月12日



橋を下流側から見る。2017 年 1 月 12 日



橋から見る調節池全景。今回は排砂を効率的にするため、池底に急傾斜の流路（1/100）を設けている。2017年1月12日



池下流部。主送水門の下流端が取水口から約 965m に相当する。ここから再び分水路が作られ、カチャラ村下流とコーティ村を潤す。2017 年 1 月 12 日

